

全国保育実践交流連絡会ニュース

2022.1月発行 関西地区

2022年の新しい年を迎えました。今年こそはと誰もが、これまでのような日常が戻ってくることに期待と希望を持って保育の現場に立たれたことと思います。しかしながら、年明け早々全国でオミクロン株による感染が拡がり、今や全国的に急激な感染拡大の第6波の渦中にあります。

昨年度は第5波のコロナ禍の中、関西の各園からも感染者が出たり、クラスターが発生したりと、大きな試練を受けた園もありました。当然交流はほとんどできない状況でしたが、何らかの情報交換をして保育の維持と不安解消につなげようとリモート会議を行ってきました。年長部会だけは関西一同のリモート会議を、各年齢別部会は北陸と近畿、中国に分かれて実践交流を行ってきました。園長リモート会議は毎月行うようにして、各園の近況報告を出し合って交流してきました。

今回はそんなコロナ禍での関西の状況をお知らせします。

《 関西地域リモート5歳児部会 2021年 11月20日(土) 》

関西地区14カ園のうち、年長児がいる13カ園が、今年度の報告や取り組みの紹介をする年長部会を行いました。事前に個人の絵や製作物、活動の様子は写真に撮り配布しておきました。当日は園全体の状況や運動会の取り組みについては各園長が報告し、年長保育の取り組みは担任が発表しました。コロナ禍の中で、県内近県との交流ができない中、各園で生活に根差した活動(料理、染め物、茶碗づくりなど)年長集団として協力し、みんなのために働く活動(共同制作、飯盒炊飯、園内の環境整備など)職員も工夫や試行錯誤をしながら保育を展開していました。うんどうかい、大半の園は午前中だけで人数制限を行って開催してきました。全体の報告の中から特記すべきこととしては、広島県の福山たんぼぼ保育園からは、夏のプールでの出来事や認定こども園鷹巣ひかりからは、コロナ感染症のクラスター発生の報告がありました。短時間の交流でしたが、他園の様子を見聞きすることで、担任も励まされ日々の保育の見直し、後半の保育の見通しがもてた会になったと思います。



5歳児部会感想

- ・ズームでの年齢別会議ではあったが、コロナ禍の状況の中で各園の工夫されている保育の情報交換ができて良かった。
- ・これまで当たり前に交流保育や合宿を行ってきたが、コロナで交流ができなくなって、改めて子どもも大人も交流保育や合宿で育つ大事さと意義を感じている。
- ・関西のどの部会でも園の実情については、良いことも悪いことも率直に出し合って、各園の共通理解や教訓にしていけることができて、素晴らしいと思っている。今回は福山たんぼぼの、幸い大事に至らなくて済んだ夏のプールでの出来事や、鷹巣ひかりの新型コロナウイルス感染症クラスターの発生状況が話され、有難く思った。

《 北陸地区リモート年齢別部会の開催 》

北陸地区の年齢別部会は、事前に各年齢の報告資料と個人の絵を配布して、下記の日程で行いました。北陸地区においても、近くの園との交流さえできない状況で、リモートでの部会開催でした。

0歳児	11月10日(水)	1歳児	12月2日(木)
2歳児	12月9日(木)	3歳児	12月16日(木)
4歳児	11月16日(火)	給食	11月30日(火)

全体の感想から

- ・「3歳児とは」を改めて考えさせられた部会だった。コロナ禍の中で行事はほとんど中止で、リズムもあまりできなかったが、その分たっぷり遊んで、食べて、眠ることができ、絵も充分描き込むことが出来た。子どもたちを「まとめよう」とか「年齢に合っていないことを与える」とかは気をつけないといけないと思った。与えたらできてしまうこともある年齢であるだけに、その怖さを感じた。
- ・集団遊びから外れる子に対して、「入れない子」「逃げてしまう子」と捉えないことを反省した。今後もしっかり遊んで、食べて、眠る生活を大事にしていきたい。

《 中国・近畿年齢別部会とリズム学習会 2022年 1月8日(土) 》

関西地域はコロナ禍となり、顔を合わせての交流は保育者も子どもも厳しい状況です。各園の保育は地域の状況を踏まえ、それぞれが豊かな体験を工夫し実践しています。

今回、中国(4か園がもみの木保育園を会場)・近畿(各5か園を会場)をZOOMでつなげ、年齢別部会とリズム学習を試みました。自園での学習や保育が続き、我流になっていないか?との思いをいただいていたが、今回の交流で保育を振り返り、刺激と元気をもらいました。コロナ感染のいろいろな影響がありながらも、仲間集団との育ち合い、自然環境の中での遊びで育つという確信が深まりました。リズム学習会は、もみの木保育園の森田さんから学ぶ、実技とお話を交えての学習を近畿は映像を各園で見ながらとなりました。距離や実際に会えない環境にも負けず、学び続ける事は大事だと実感します。



年齢別部会・リズム学習会感想

厳しい状況の中研修開催ありがとうございました。

学びながら実践を積み上げてきた私たちの保育ですが、この2年弱何もかも手探りで保育と運営。エッセンシャルワーカーと重要な役割がある職種と言われながら、地域行政や国からの具体的かつ有効な支援指導がない中、保育士たちは疲れ果て労働組合員の脱会、学童の組織離れも増えてきています。どのような形であれつながりを切らないで、研修が開催されたことは本当に感謝です。若い保育者が自分の言葉で実践を語る場はこのような状況だからこそ大事だと思います。リズム研修ももみの木皆さん初めての試みで大変だったと思います。感謝しています。リズムの研修は初めてという職員もいて映像を見ながら園でやってみました。コロナになってから園内リズム研修も中止していたので、リズム研修はやはり必要だと思いました。対面での研修は良いですが、この状況の中では難しいと思うので今回のような形でできればと思います。

あすなら保育園 2022年4月に学童保育所を開設します

奈良県のあすなら保育園は2011年4月に開園。同法人の介護職員の子育てを支えるために、365日、7時から20時の保育を実施しています。「親の仕事の都合」と「早寝早起き、仲間と共に過ごす子どもの生活」はなかなか一致せず、法人内でも夜の仕事や土日勤務をできるだけ避けてもらうことを根気強く話し合いながら保育を進めてきました。

パンツで過ごすことや泥だらけになって遊ぶこと、散歩に出かけるこ

とにも当初は様々なご意見もいただきましたが、10年の中で徐々に理解と共感をいただけるようになりました。その中で、「小学校に行ってもあすなら保育園と同じように、仲間と身体を動かして豊かに遊ぶ生活を保障したい」との保護者の声が大きくなり、2019年から「あすなら学童をつくる会」を発足。市との交渉を進めてきました。保護者とともに、石川県山中ふたば保育園の「山の子学童」も見学させていただき、夢を膨らませました。そして、ようやく建設と運営について補助金がいただけることになり、

2022年4月に「あすなら学童保育所」を開所することになりました。40人定員ですが、初年度は1年生から4年生までの20人程度が来所予定です。コロナ禍の影響で建築費が暴騰し、当初予定よりも1000万円以上建築費が上がるなどの困難もありますが、作る会で募金にも取り組んでいます。子どもの笑顔が増えること、小学生が少しでもホッとできる場所をつくることを、保育園職員も一丸となって取り組んでいきます。



くりのみ保育園 コロナ禍での保育

くりのみ保育園は、兵庫県の南西部にある山に囲まれた人口約25000人の小さな町にあります。コロナ禍でもオンラインや可能な時は対面で、園長会や年齢別部会、全国の学習会などで勇気づけられながら、この閉塞的な状況でも職員みんなが前を向いて子どもたちと向き合っています。

8月「お楽しみ会」は保護者の参加はやめ、保育の中で行い、運動会の参観は、両親のみ、別日に祖父母参観を行うなど、行事は縮小しながらも行うことができました。

年長の活動はコロナ禍で交流はできていませんが、今やれることをやろうと園内でのお泊まりは、年5回予定し、その都度、保護者と相談しながら、自分でやることは自分でやる生活や山登りを経験し、夏は川遊び、秋は夕ご飯作りとおやつ作り、乗馬やハイキング（約7km）を楽しみ予定通り3回終えることができました。コロナ

の状況になり、合宿の食事の所では保護者に頼らず、給食職員中心に支えてくれています。秋は例年であれば、くるみで4日間広い園庭で年長リズムをやりきる経験をします。交流はできなくてもその経験は貴重だと話し合い、年長のために4日間

続けて園庭を解放してもらい自園の園庭で年長リズムを楽しみました。他クラスの子どもたちは、見ているところで荒馬の真似をしてみたり、鉄棒や丸太で遊んでみ

たり、1歳児でも食い入るように見る姿もありました。年長さんも「きもちえなあ」と楽しんでいました。

もうすぐスキーのお泊りも控えています。変異株で読めない状況ですが、これからも、大人が知恵を出し合い子どもたちを支えていきたいと思っています。



夏お泊り



秋お泊り



園庭でリズム遊び

認定こども園鷹巣ひかり コロナ禍での保育

認定こども園 鷹巣ひかりは、令和3年7月30日に園児でコロナの陽性がわかり、そこから次々と陽性者が増えクラスターが発生しました。2週間休園し、全園児が揃ったのは9月に入ってからです。保健所や市の職員から、この時期（コロナ禍）に室内で異年齢が合同でリズムをすることはリスクが高いので控えることや、食事は向かい合わずに一方方向を向いて食べること、当面園の行事は控えることなど細かく指導を受けました。

2週間の休園措置が終わり子どもたちは目の前にいるのに、この保育で大切にしていることを全部否定された気がして、どう保育していけばよいかわからないままの生活でした。職員みんなで話し合いを重ね、感染対策を徹底しながら保育を行っていかうとしましたが、室内のリズムは怖く、外に出てロピアノでリズムをしたり、遊んだりすることからはじめました。10月のうんどうかいは保護者の参観はなしにして、子ども達だけで行いました。9月・10月は晴れの日が多く外での活動を中心に生活ができたことや、うんどうかいごっこへ向かうことで、子どもたちも職員も元気になっていったように思います。うんどうかいごっこを通して、みんなでひとつになり何かに向かうということでも乗り越えられたものもあっただろうと感じることができました。



福井県の感染者が少なくなった11月に今年度初めて年長は園内合宿をすることができ、出来たこと自体を嬉しく思いました。現在はまだまだ制限が多いですが、少しでもこれまでの保育に近い形で保育が出来る日が来ることを願っています。



認定こども園鷹巣ひかりにも「鷹巣児童クラブ」の新学童舎が完成します

鷹巣児童クラブは、平成6年（1994年）に卒園児の母の「卒園してもさくら、さくらんぼの保育で育てたい!」という思いを受けて小さなプレハブ小屋から始まりました。平成19年（2007年）からは、福井市の委託事業（放課後児童健全育成事業）の鷹巣児童クラブとして新たな出発をし、園から徒歩3分の所に古い民家を借り上げて事業を行ってきました。

民家は耐震基準が満たされず安全面を心配しながらの運営で、早く新しい学童舎を造りたいと願ひ続けてきました。幸いにして市に提出していた、令和3年度事業放課後児童健全育成事業施設整備補助金申請の交付決定があり、9月入札、起工法要式、着工と木材等高騰の大変さもありますが、



順調に工事は進み2月の完成を待っています。コロナ禍で気持ちも落ち込み大変な時期もありましたが、今は子どもたちの新しい居場所作りと、学校生活の疲れを癒しリフレッシュできる場の完成を、みんな大きな期待に夢膨らませて待っています。

